



画像出典：政府広報オンライン（一部編

防ごう！大人の風しん

30代から50代の男性は風しんに対する免疫が不十分です
自分自身だけではなく、家族や一緒に働く人を守るためにも、風しん予防をしましょう

厚生労働省の追加的対策による風しん抗体検査・第5期予防接種

対象者 昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性

内容 クーポン券をご自宅に発送します（発送時期は生年月日により異なります）。

クーポン券を使えば、本事業に参加する全国の医療機関で抗体検査・予防接種ともに**無料**で受診できます。受診できる医療機関のリストはこちら→

詳しくは、[風しん 追加的対策](#)



千葉市で実施している風しん対策（*）HI法で16倍以下、EIA-IgG法で8.0未満相当の方

風しん抗体検査（千葉市民対象）

対象者

- (1) 妊娠を希望する女性
- (2) 妊娠を希望する女性の配偶者（事実婚含む）および同居家族
- (3) 抗体価の低い妊婦（*）の配偶者（事実婚含む）および同居家族
- (4) 昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性（上記クーポン券がない方）

費用 **無料**

実施方法 市内協力医療機関へ予約のうえ、検査を受けてください。

MR（麻しん風しん混合）ワクチン任意予防接種

対象者 風しん抗体検査の結果、抗体価の低い方（*）

費用 **無料**

実施方法 抗体検査の結果を持参し、市内協力医療機関へ予約のうえ、接種を受けてください。妊娠中の方は接種できません。また、接種後2か月間は避妊が必要です。

※風しん対策について、詳しくは千葉市ホームページをご覧ください→

※詳しくは、[千葉市 風しん抗体検査](#)



風しんとは？

風しんは、風しんウイルスによって起こる感染症で、くしゃみや咳などで飛び散った唾などによって飛沫感染し、通常 2～3 週間の潜伏期間の後に、発熱や発疹、首や後頭部のリンパ節の腫れ、関節の痛みなどの症状がみられます。一般的にその症状は軽く、数日の経過で回復しますが、まれに高熱が続いたり、急性脳炎などの合併症を生じて入院が必要になったりするケースもあります。

なぜ対策が必要？

風しんは子どもの病気と思われがちですが、近年では、子どもよりも大人の間で風しんの感染が広がっています。そうした中で最も心配されているのが、妊娠中の女性への感染です。妊娠中、特に、妊娠 20 週ごろまでの女性が風しんにかかると、母体を通じて胎児がウイルスに感染し、眼や心臓、耳などに障がいのある（先天性風しん症候群）子どもが生まれる可能性があるからです。その確率は妊娠初期に感染するほど高いと言われています。



先天性風しん症候群を防ぐには？

先天性風しん症候群の発生を防ぐためには、妊娠中に風しんにかからないようにすることが重要です。しかし、妊娠が分かってからでは予防接種を受けることができません。妊娠を希望する女性の皆さんは、まず、妊娠する前に抗体検査を受けましょう。その結果、免疫が十分でないことが判明した場合は予防接種を受けましょう。また、妊婦と同居する家族や、職場を含めた周りの方も対策に取り組む必要があります！平成 24 年から 25 年にかけての風しんの流行では、風しんに感染した場所として最も報告が多かったのは「職場」でした。自分自身だけでなく、家族や一緒に働く方をまもるために、抗体検査、予防接種を含めた予防対策を検討することが重要です。